

第325回 山口西田読書会 (2023年3月11日開催分) プロトコル

楯谷智子

1. テキスト

「場所」四 265頁 3行目「限定せられた有の意義を脱しない・・・」から
265頁 11行目「・・・有すると考へられねばならぬ。」まで

2. キーワードないしキーセンテンスと考察ないし問い

キーセンテンス ※読書範囲の最後の文章

「ドゥンス・スコトゥスの如く意志は善の知識にも束縛せられない、至善に対しても意志は尚自由を有すると考へられねばならぬ。」

キーワード

「至善に対しても意志は尚自由を有する」

考察ないし問い

231頁15行に「此世界(=真の無の場所)に於ては広義に於ける善のみ実在である」とあります。また、232頁5行に「絶対的無の場所に於て真の自由意志を見ることができる」とあり、これは「状態としての自由」と読みました。「善のみ実在」であるような善=至善も自由意志も真の無の場所にあり、それなら善=自由意志のはずです。しかしキーワードは善=自由意志とは限らないことを意味します。これが「矛盾」なのでしょうか？